

古墳の概要

赤穂市坂越の小島地区にある「みかんのへた山古墳」は、古墳時代中期前半（およそ1,600年前）に築かれた古墳です。

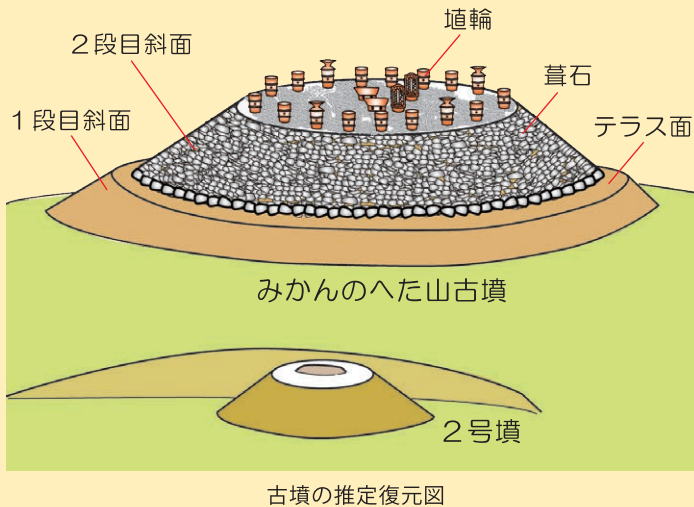
古墳は坂越湾を望むみかんのへた山の頂上に築かれており、古墳からは鍋島や生島が浮かぶ坂越湾と瀬戸内海、小豆島などを眺めることができます。

その特徴的な立地から、海との関わりを持つ古墳の典型として、昭和50（1975）年に兵庫県指定史跡に指定されています。

平成30（2019）～令和2（2021）年度にかけて赤穂市教育委員会によって発掘調査が実施され、葺石・埴輪を持ち、2段築成（墳丘にテラス面とよばれる平坦面が一周巡る形状）で直径28m、高さ4mの円墳であることが判明しました。

また古墳の内部には、墓穴に木棺をそのまま埋葬する「木棺直葬」という形式で当時の有力者が葬られた可能性が高く、後世の乱掘穴からは副葬品の一部と考えられる鉄製甲冑（革綴短甲・頸甲）や鉄剣の破片が出土しています。鉄製甲冑はヤマト政権から各地の有力者に配布されたものと考えられ、みかんのへた山古墳に葬られた有力者の権力の強さを示しています。

坂越湾や瀬戸内海を一望する特徴的な立地、埴輪や葺石を伴う入念な構造、鉄製甲冑を副葬する点から、周辺の港や航路を管理・掌握し、その地位をヤマト政権から認められた有力者が葬られているものと考えられます。



「みかんのへた山古墳」の由来

「みかんのへた山」という愛嬌のある変わった名前は、古墳の地形が由来です。

古墳のある山は麓から見ると、きれいな半球形のみかんの実に見えます。そして、頂上に飛び出した古墳が、あたかも「みかんのへた」のようにみえたことに由来しています。

古くは「柚子（ゆう）のへた」とも呼ばれ、昔から地元の方々に親しまれていました。



古墳へのアクセス



兵庫県赤穂市

県指定史跡

みかんのへた山古墳



赤穂市教育委員会



古墳の頂上でみつけた墓穴の輪郭

墓穴（墓坑）は東西長7m、南北幅3.5mという巨大なもの。一部が後世の乱掘によって破壊されていますが、内部には木棺と副葬品が納められていると考えられます。棺の中は遺跡の保存のために調査していません。



□：発掘調査が行われた箇所

すぐ近くに直径11mの小さな円墳（みかんのへた山2号墳）もあります。こちらも木棺直葬の古墳と考えられます。

2号墳

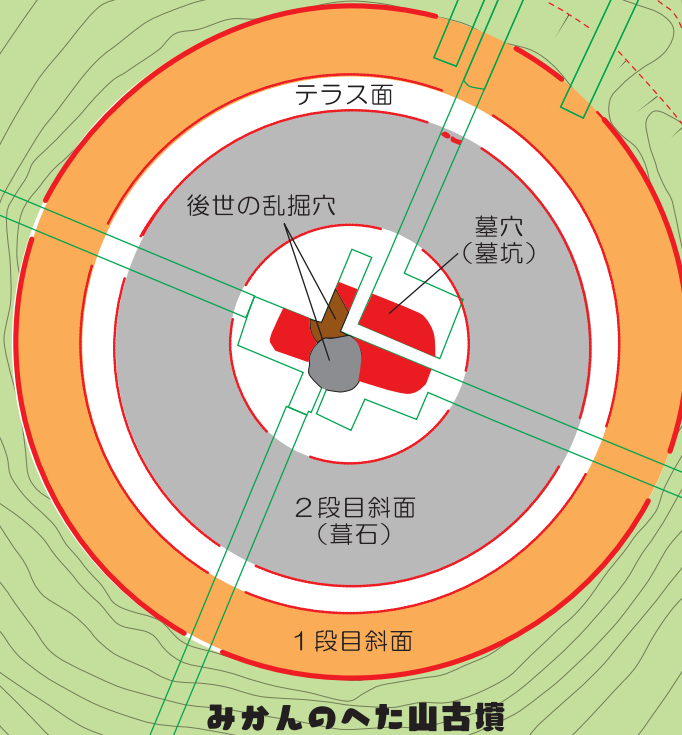


古墳と坂越湾
古墳の眼下には、絶景が広がります。鍋島や生島（樹林は国指定天然記念物）の浮かぶ坂越湾や、遠くに瀬戸内海に浮かぶ小豆島を望むことができます。



南側の斜面でみつけた葺石

古墳の近くで採取した石材を、斜面に積み上げています。ただし葺石は2段目斜面にのみ、施されています。



みかんのへた山古墳

0 20m



発掘中のみかんのへた山古墳
古墳北東側斜面の調査のようす。



出土した鉄製甲冑の破片
短甲（左）と頸甲（右）の破片。
本来は副葬品として墓穴に納められていたものが、後世の乱掘で一部が破壊されたことで出土しています。